

南谷地域づくり計画
2025-2034
南谷自治協議会

オモイが帰る場所
「ただいま」が聞こえるまち



minamijikyou.com

そもそも自治協って何のためにあるの？ 「地域づくり計画」って何？

地域自治組織（自治協議会）は、地域コミュニティ内の住民同士が協力し合い、地域の課題に向き合いながら、暮らしやすい環境を築くことを目的とした組織です。南谷自治協議会は、南谷地域内の6つの区や団体に構成されており、区や団体の枠を越えて、住民主体で活動を行うことを重視しています。特に、区単位では解決が難しい地域課題に取り組むための基盤を整える役割を担っています。つまり、単なる組織ではなく、「みんなで暮らしやすい地域をつくる」ための協力体制を築く仕組みと言えるでしょう。

「地域づくり計画」は、南谷地域の課題や目標を明確にし、それを実現するための具体的な方針や行動をまとめた計画です。この計画の実行には、地域住民、団体、行政、法人など多様な主体が関わります。住民の生活を豊かにする視点を大切にしながら、意見やアイデアを反映させることで、より魅力的な地域へと発展していきます。



地域づくり計画は 南谷地域の新たな出発点！

2013年の発足以来、南谷自治協議会は地域課題の解決に取り組んできました。しかし近年、住民の高齢化や人口減少の影響により、活動の停滞が見え始めています。本来、「自治」とは地域住民が主体的に未来を描き、自由に活動できる仕組みであるはずですが、近年の活動は無意識のうちに義務化され、住民の負担が増している状況が見受けられます。

地域が抱える課題は多岐にわたります。私たちは、南谷地域の未来をどのようにしたいのか、そして何が実現可能なのかを改めて見つめ直すため、計画策定委員会を設置し、1年間にわたり議論を重ねました。

この計画を基に、今後10年間活動してまいります。計画はゴールではなく、新たなスタートです。日々変化する状況の中で、住民の皆様の「もっとこんなことをしたい」「こんなことなら協力できる」といった声を、ぜひお聞かせください。本書が南谷地域の新たな出発点となることを願っています。

南谷地域づくり計画策定委員会

これまでの活動

- 地域づくり計画策定委員会(7回/年)
- 南谷未来会議開催(3回/年)
- アンケート作成・実施
- 南谷大発見「明延鉱山探検坑道編」実施
- 広報誌発行
- 南谷大発見「御井神社まいそまつり編」実施
- 調査・ヒアリング(養父市社会福祉協議会、養父市土地利用未来課、やぶぐらし・地方創生課、商工観光課)



南谷地域のこと

南谷地域の概要

南谷地域は、養父市大屋町の最南部に位置し、須留ヶ峰(1,054m)、御祓山(773m)などの高い山々に囲まれた山間の地域です。明延川が南から北へ谷あいを縫うように流れ、集落や田畑を形成しています。

この地域は「糸原」「宮本」「門野」「須西」「和田」「明延」の6つの集落で構成され、かつては「南谷村」(1889年～1955年)として一つの自治体だった時期もありました。2025年1月末時点の住民基本台帳によると、世帯数は268世帯、人口は543人で、65歳以上の高齢化率は56.5%に達しています。

地域の産業は、1987年(昭和62年)の明延鉱山閉山まで、鉱業が主力でした。鉱山以外では、古くは稲作、養蚕、炭焼き、林業などが盛んでしたが、現在は衰退し、農業(主に兼業農家)、建設業、畜産業、縫製業、観光業、サービス業などが営まれています。特に観光業では、あけのべ自然学校や鉱山遺構を活用した探検坑道、一円電車がシーズン中に多くの観光客で賑わっています。また、但馬木彫やアーティストの移住により、地域独自の芸術活動が生まれ、新たな賑わいを創出しています。

地域の文化財としては、糸原の「みづめ桜」(市指定)、和田の「栲幡原神社のカシ林」(県指定)、宮本の「まいそう祭り」(市指定)、明延の「両松寺の梵鐘」(市指定)、「明神電車車両」(県指定)などがあり、地域の住民によって大切に守られ、受け継がれています。

環境整備においては、長年の課題であった県道の改良が進み、2013年(平成25年)に糸原バイパス、2024年(令和6年)に門野バイパスが開通しました。これにより、地域内の交通事情が大幅に改善され、今後の地域活性化が期待されています。

南谷地区の世帯数・人口・高齢化率(2025年1月末現在)

地区名	世帯数	人口	うち65歳以上	高齢化率
糸原	43	101	50	49.5%
宮本	67	141	74	52.5%
門野	55	115	71	61.7%
須西	17	33	23	69.7%
和田	45	95	48	50.5%
明延	41	58	41	70.7%
合計	268	543	307	56.5%

※養父市住民基本台帳



..... アンケートなどから見えてきた地域の現状

魅力

豊かな自然環境

景観や星空など、豊かな自然環境に多くの人が魅力を感じています。米作りや野菜作りができる環境が整っており、農のある暮らしを楽しむことができます。また山や川など、アウトドア活動を楽しめるフィールドが豊富にあることも大きな魅力です。

人があたたかい

「人々があたたかい」「助け合いの風土がある」といった声が多く、これまでの歴史の中で育まれた文化と、厳しい自然環境の中で培われた助け合いの精神が息づいています。隣近所の支え合いや交流もあり、人とのあたたかなつながりが感じられる地域です。

住民の多彩な趣味・特技

野菜づくり・園芸・手芸・釣り・写真など、多くの人が多彩な趣味や特技を持っています。「教え合い・学び合い」の場や、同じ趣味を持つ人をつなげる機会を積極的に作り出すことで、新たな地域コミュニティ形成のきっかけになります。

農のある暮らしと食のコミュニケーション

多くの人が米作りや野菜作りを楽しんでおり、それを通じて隣近所との交流が生まれ、野菜の「おすそわけ文化」が根付いています。また、野菜の調理方法が共有されることもあり、こうした日常のやり取りの中に地域のあたたかさが感じられます。

歴史・文化を活かした観光分野の将来性

「明延鉱山」の歴史遺構を活用したイベントなどが、近年軌道に乗り始めています。地域に残る伝統や歴史を活かした観光や体験プログラムを積極的に進めることで、新たな魅力を創出し、関係人口や交流人口の増加につながります。

外向きな情報発信への意欲

「地域外に積極的に発信すべき」「目的や内容による」との意見が半数以上を占めています。魅力を発信し共感を生むことで、ファンや協力者、さらには移住者を増やすきっかけとなるほか、地域の人々がその魅力を再認識する機会にもなります。

課題

人口減少・少子高齢化による住民負担の増加

地域住民の65歳以上の方が約半数を占める現状から、若年層の負担が一層深刻化すると予想されます。特に、地域行事の運営や自治協の運営委員など、地域活動の担い手の確保が難しく、重大な課題となっています。

空き家や農地の管理

高齢化や過疎化に伴い、空き家や耕作放棄地が増加しています。この状況は、地域の景観を損ねるだけでなく、土地活用や農地の管理を一層困難にし、地域の活力低下や土地利用の課題を深刻化させています。

移動手段

買い物や通院、通学などの移動手段が限られるため、自家用車を利用できない方や学生にとって大きな負担となり、社会参加の妨げにもなっています。現在、自家用有償サービスも十分に定着しておらず、認知度の向上や利用しやすい環境づくりが求められています。

地域行事やイベントの継続

少子高齢化に伴う企画・運営の人材不足や、地域行事への関心の低下により、参加者の減少が続いています。世代のニーズに合った活動や、地域の状況に適した規模・実施方法への見直しが求められています。

外部連携における不明確なそれぞれの役割

教育、福祉、医療、防犯、災害対応、交通、空き家、農地など、社会インフラに関わる地域課題の解決には、行政をはじめとする外部機関との連携が不可欠です。しかし各機関がどの範囲まで対応するのか、その役割や方向性が不明確な現状があります。

日常的に集まれる場所や子どもたちの居場所の不足

娯楽や息抜きの場が少なく、気軽に友人と集まれる場所や学習の機会が限られていることが課題となっています。また、日常的に利用できる交流の場が不足しているほか、公園など子どもたちが自由に安心して遊べる環境の整備も十分ではありません。



これからの南谷地域に合った 地域づくりの実践ポイント

- 01** **すでにある地域の「強み」を活かす**
自然や景観、歴史、伝統文化など、地域にある資源を最大限に活用する。

- 02** **小さくても効果的な取り組み**
大きなプロジェクトではなく、現実的で住民が楽しめる取り組みを優先する。

- 03** **多世代が共存する仕組み**
若者や子育て世代、高齢者が自然に交流できる場をつくる。

- 04** **「できること」から始める**
住民全員が参加しなくてもいい、小規模な活動を積み重ねる。

- 05** **外部との連携を積極的におこなう**
地域の人材やアイデアだけに頼らず、外部団体などと協力して活動を進める。

- 06** **ICTを活用した効率化**
会議や情報共有にデジタル技術を導入し、業務の負担を軽減する。

南谷地域が目指す地域の姿

オモイが帰る場所 「ただいま」が聞こえるまち

このキャッチコピーは、「安心して戻れる場所」を象徴しています。「ただいま」という言葉に込められた地域のあたたかさを通じ、地域が単なる居住地ではなく、人々の心をつなぐ場所であることを表現しています。「オモイが帰る場所」というフレーズには、地域への愛情や絆を大切に、自然や文化を守りながら、次世代が「また帰りたい」と思えるふるさとを築く願いが込められています。多くの人にとって「帰りたくなる場所」や「第二の故郷」となる地域を目指しています。

基本方針・基本目標

暮らしを まもる

誰もが安心・安全に暮らせる地域

防犯・防災・福祉・自然環境・交通・空き家など、暮らしに関わる課題を行政・その他関係機関と連携し、課題解決へと向かわせる。

人と人を つなぐ

人と人がつながり、誰もが自分らしく暮らせる地域

住民、関係人口、交流人口など、多様な人々が自分らしくつながる機会を創出するとともに、歴史・文化・風土などの魅力ある地域資源を次世代へ継承する取り組みを主体的に進める地域を目指す。

拠点を つくる

人が集い新しいモノ・コトが生まれる場が育つ地域

世代を超えて誰もが気軽に集まれる、さまざまなかたちの開かれた交流拠点を創出し、人・モノ・コト・情報が交わり、新たなアイデアが自然と生まれつづける場へと育てていく。

地域を外へ ひらく

地域の未来と関わる人材が育つ地域

故郷を離れた人も含め、多様な人々にこの地域の魅力や情報をわかりやすく発信し、ファンを増やすことで、より多くの人々が南谷地域と関わるきっかけをつくる。

暮らしを
まもる

誰もが安心・安全に暮らせる地域

防犯

南谷駐在所との連携を深め、地域全体で防犯対策を強化

防犯課題の共有／防犯出前講座の実施／
地域内の危険場所の情報交換／防犯器具の増設／子どもの見守り活動

防災
福祉

垣根を超えた協力体制の構築と地域福祉への取り組み

各区の状況に応じた防災対策の支援／福祉委員会(社協)との情報共有／
「いざという時の避難所の共有」など、区の垣根を超えた共助体制の構築／
行政・社協などと連携した地域福祉への取り組み

集落
支援

集落支援事業の実施と住民負担の軽減施策の検討

集落支援事業の継続的な実施／
自走式草刈機の導入や貸し出し事業の検討

空き家

空き家の発生抑制のための住民意識の向上

転居や相続に伴う空き家情報の共有／
市担当課と連携した制度や早期対処の重要性の周知

移動
手段

「やぶくる」の活用促進と運転手の育成の推進

料金やサービスの透明化と利用メリットの周知／
イベント開催時などの交通手段として、地域内に特化した運転手の育成

人口減少
対策

帰って来れる地域づくりと移住者受け入れ体制の構築

移住者受け入れのための雰囲気づくり／地域資源を活用した雇用の創出／
子育てしやすい環境の整備／空き家情報の共有／地域情報の整理

人と人を
つなぐ人と人がつながり、
誰もが自分らしく暮らせる地域

交流

多様なニーズに対応できる気軽に定期的な交流機会の創出

コミュニティカフェ(サロン)の開催／「教え合い・学び合い」の場づくり
趣味テーマ別イベントの開催(読書会、囲碁会、手芸会など)

若年層・子育て世代向けの交流機会の創出とコミュニティ形成

夜カフェの開催／親子カフェ・親子ピクニック・自然体験イベント／その他

娯楽や体験を通じた世代間交流の促進

文化祭／落語会／研修旅行／コンサート／展覧会／その他

文化
継承

地域資源を活用したイベントの企画・実施・支援

まち歩きイベントの実施／南谷昔写真展／農産物即売会／
各区のにぎわい事業への支援／その他

活動
支援

住民提案型企画事業の促進と実施サポート

住民が主体的に提案した企画を実現できる仕組みと環境の整備／
企画実施に向けた広報や助成金などの支援／その他

ハブ
機能

自治協のハブ機能の強化

地域コミュニティのつながりを強化し、協力し合える仕組みを整備。
地域資源の情報整理／協力団体ネットワークの拡充／地域活動人材の育成／
地域内外の多くの人々が地域に関わるきっかけづくり

拠点を つくる

人が集い新しいモノ・コトが生まれる
場が育つ地域

屋内 拠点

南谷ふるさとセンターの利用促進と活性化

利用促進のための雰囲気づくり／誰もが安全に利用できる環境の整備
子どもたちが安心して利用できるルールとマニュアルの制定／
さまざまな企画が実施しやすい環境の整備／その他

屋外 拠点

旧南谷小学校グラウンドを新たな屋外拠点として整備

子どもたちが安心して遊べる広場づくり／スポーツ活動の促進／
定期的な危険箇所の確認／草刈りなどの環境整備／
ルールとマニュアルの制定と周知／自走式草刈機の操作講習会の実施／
さまざまな企画が実施しやすい環境の整備／その他

周辺 拠点

場所にとらわれない拠点のあり方の推進

各区の公民館や広場の有効活用／山、川、景観、田畑など地域資源の活用
地域活動に利用可能な場所のサーチと設定／その他



地域を外へ ひらく

地域の未来と関わる人材が育つ地域

情報 発信

ウェブサイト運営 -地域の総合情報プラットフォームとしての役割-

歴史、伝統文化、風土、観光など地域の魅力を紹介／イベント情報発信／
自治協議会の活動報告／取材記事掲載／動画コンテンツ制作／
インターネットでのイベント参加受付／その他

SNS運営 -双方向コミュニケーションの実現-

季節ごとの風景やイベントの様子の投稿／イベント情報の発信／
フォロワー参加型企画の実施(写真コンテストなど)／その他

広報物の作成

南谷だよりやイベント告知チラシなど広報物の作成

移住 促進

移住希望者に向けた地域情報の発信

地域情報の発信／交流イベント情報の発信／その他

人材 連携

南谷地域づくりネットワークの構築

関係各所との連携／役割とネットワークの見える化／
プロジェクトの提案／地域内外の多くの人々が地域に関わるきっかけづくり

計画実行スケジュール

2025

基盤づくり

小さなつながりの場の創出とネットワークの構築

01 つながりの仕組みづくり

- 南谷地域づくりネットワークの構築と役割の「見える化」

02 つながりの場の設置

- 地域内にサロンを設置し、定期的に住民が気軽に集える交流機会を創出
- 旧南谷小学校グラウンドの試験的な整備を市との協働で始動

03 プロジェクトの試験始動

- 小規模な地域交流イベントを積み重ねる
- 外部からの地域活動に興味がある人や学生などの受け入れ開始
- 生活インフラ・社会インフラに関する小規模な事業の推進

04 広報活動

- ウェブサイトの開設と地域の魅力や情報の発信

2028

プロジェクトの拡大と持続可能な仕組み作り

住民が主役となる地域づくりと成功事例の拡大

01 プロジェクトの拡大

- これまでの事業を振り返り、効果的かつ継続可能な事業の拡大

02 人材育成

- 地域コーディネーターやリーダーとなる住民の育成

03 関係人口の定着化

- 関係人口を増やすための長期的な地域交流プログラムの実施

2032

持続可能な地域づくり

「選ばれる地域」へ～住民と関係人口がつくる新たな価値～

01 地域運営の自立化

- 地域住民と関係人口が協働で運営するプロジェクトの展開

02 U・Iターン者受入れの推進

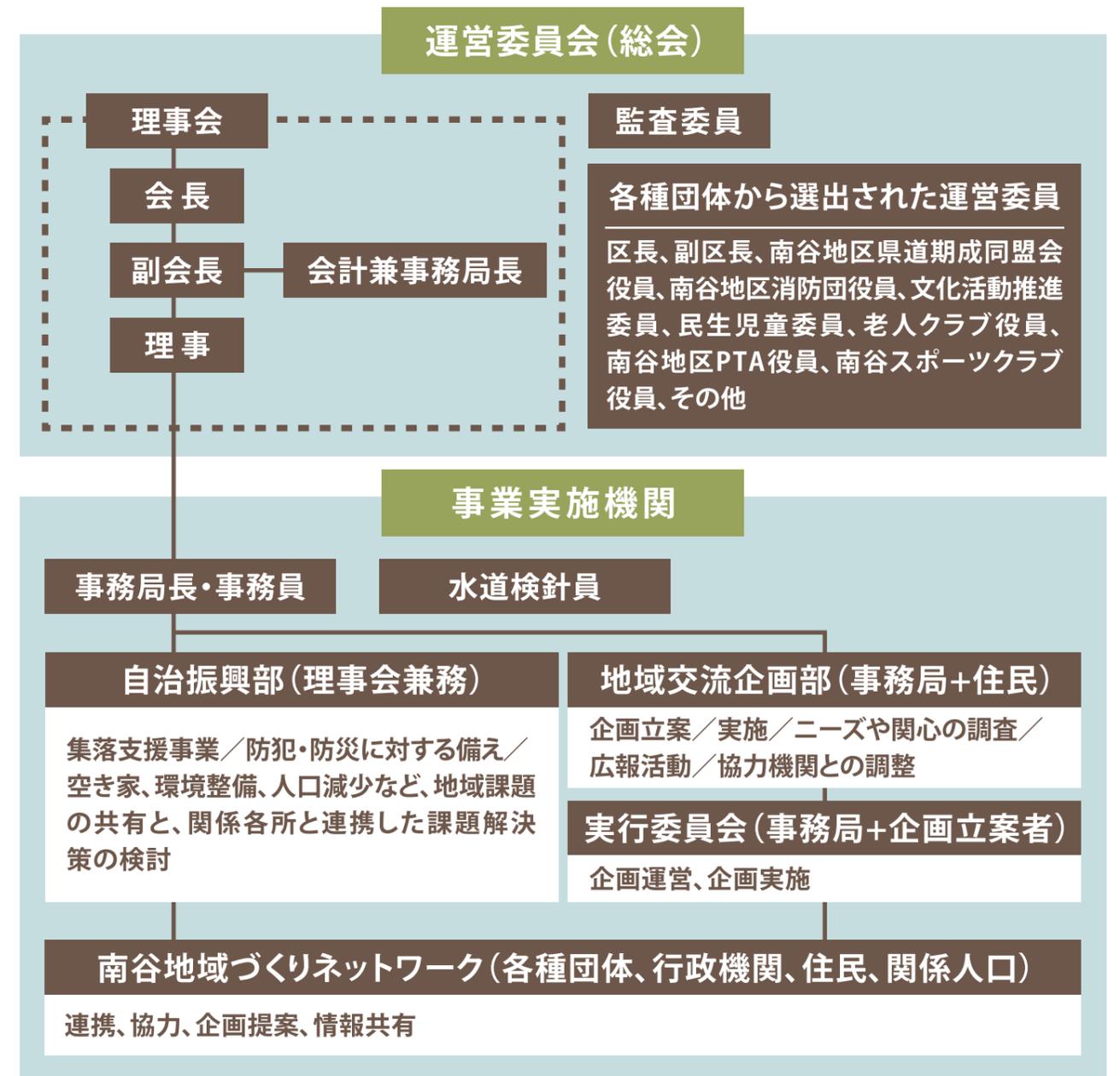
- 地域内の空き家情報整理と移住者受け入れ体制の整備
- 移住者受け入れのための広報活動の強化

2034

03 地域ブランドの確立

- 地域資源を活かした地域ブランドの形成

南谷自治協議会組織図



評価と見直し

評価と見直しの時期

年度末評価	毎年度末
中間評価	2027年・2031年 年度末
総合評価	2034年 計画終了時

評価委員会

南谷自治協議会理事会、監査委員、
地域づくりアドバイザー、大屋担当チーム